

京都国立近代美術館コレクションギャラリー小企画

# 「書く」ことと

# 「描く」こととの間

あいだ

—京近美コレクションと子どもたちの出会い—展

平成20年7月23日(水)～9月7日(日)(月曜休館)

京都国立近代美術館 4階コレクションギャラリー

主催：京都国立近代美術館、京都教育大学

## ●書くことと描くこと

漢字の「書」と「畫」(「画」の旧字体)は、よく似ています。古来、書と画が同一人物によるものも少なくありません。小学生には「書く」と「描く」の使い分けは難しいともいわれますが、「書く」ことと「描く」ことは、表現としてどのように異なるのでしょうか。

作品のなかには両者が極めて近い表情をしていることがあります。本展示では書作品と絵画作品について、作家の表現観や姿勢から異同を探り、次いでその変容や展開を概観しながら、表現とは何か、その意味について考えてみます。

第1室は、「書く」ことと「描く」ことの意味について、第2室は、その展開や可能性へと追ってみました。

## ●企画の経緯

思い立ったときに見たい作品が見られることは、美術館の常設展示の魅力です。学校の図画工作・美術の授業と関連付けて活用できると、生涯付き合えるような作品が見つかるかもしれません。このたび、京都国立近代美術館が京都教育大学と連携した小企画として、子どものためのコレクション展を開催します。京都教育大学美術教育研究室の大学院生(現職教員を含む)が、京都国立近代美術館の研究員と定期的に打ち合わせを持ちながら、子どもが作品とどのように出会うか、美術史の文脈との整合性といったことなど、おおいに悩みながら、本展を構成しました。

\*7月26日(土)ほかに、現職教員や大学院生による子どものギャラリー・トークが予定されています。

●展示作家：井上有一、白髪一雄、堂本印象、加山又造、吉原治良、元永定正、ピエト・モンドリアン、菅野聖子、磯部行久(計13点)

●アクセス：京都国立近代美術館 〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町 <http://www.momak.go.jp>

JR/近鉄：京都駅前バスA1乗り場一市バス「5」岩倉行き「京都会館美術館前」下車、地下鉄東西線「東山」下車徒歩5分、ほか



元永定正、ZZZZZ、1971、京都国立近代美術館蔵(本展展示)

●問い合わせ先：京都国立近代美術館 学芸課 山野英嗣、豊田直香

Tel: 075-761-4111(代)

京都教育大学 美術教育研究室 石川 誠 [mishik@kyokyo-u.ac.jp](mailto:mishik@kyokyo-u.ac.jp)



■本展は、第32回 InSEA(国際美術教育学会)世界大会 in 大阪の関連企画です。